

日本アニメーション言語環境における日本語自主学習習得

陳 桜*, 康 伝金

Japanese self-learning experiences in animation language environment

Chen Ying*, Chuanjin Kang

要旨

アニメーションはマルチメディアを手段として、「見る」、「聞く」、「話す」を一体して、言語習得者の言語学習環境を作り、学習者の言語能力を高めることができる。そして、アニメーション作品が目的語言語知識、言語使用知識を提供してくれると同時に、その目的語の民族の特性、人文思想、精神気質を客観的に表す。豊富なアニメーション作品が提供してくれる言語形式、社会文化言語環境は言語学習者の異文化コミュニケーション能力を育成することができる。そして、目的語の国の政治、経済、文化、生活習慣などを知るには、重要な役割をしている。日本のアニメーション言語環境を利用し、日本語学習者の日本社会、日本文化への理解、異文化コミュニケーション能力の育成などに一つの手段である。

本文は人文心理学構築主義に関する理論から、インターネットを通じて日本のアニメーションを鑑賞し、自主的に日本語学習の実際効果を考察する。学習者の日本語能力、自主能力、異文化コミュニケーション能力を考察し、アニメーション言語環境下の日本語自主学習モデルを検討する。

キーワード：アニメーション 言語環境 日本語自主習得

陳 桜：惠州学院外国語系 日本語科3年生

康 伝金：惠州学院外国語系 環境管理高級工程師 外国語講師

1. はじめに

言語習得観の変遷を見ていくと、行動主義、生得主義、認知心理などの順に分けることができる。行動主義においては、単に環境から刺激による受動的なもので、続く生得主義においては、受動的な言語習得観は否定され、学習者の内的要因が強調され、言語習得を生得的なメカニズムが徐々に発現していくものといえる傾向が強い。しかし今日では、環境や生得的要因の制約などに対し、学習者が能動的、主体的に取り組みながら習得というものを行っていくように思われる。教室学習環境でもマルチメディア環境などのリソースを用い、日本語を習得することができる。たとえば、日本アニメーションはマルチメディアを手段として、「見る」、「聞く」、「話す」を一体して、言語習得者の言語学習環境を作り、学習者の言語能力を高めることができる。そして、その作品が日本語知識、日本語使用知識を提供してくれると同時に、その日本の民族の特性、人文思想、精神気質を客観的に表す。中国大学内日本語教育においては、個々の大学生学習者の動機づけや言語適性、学習スタイルなどの問題はあまり重視されなかった。大学教師の側からも、教室習得環境でありながら、アニメーションの外的環境を取入れたり、大学生学習者自らにそのような取り組みができるように誘導したりすることが可能となる。

このようなアニメーション言語環境と日本語習得との関係を踏まえたうえで、日本語自主習得についての検討を行ってみたい。

2. 言語習得から見たアニメーション言語環境の特徴

アニメーション言語環境下において、日本語に興味をもった若者も無論的に増えている一方である。「興味は最高の先生だ。」という理屈は、世界中どこでも通じるはずであろう。

例えば、「俺は海賊王になる！」この言葉、大勢のワンピースファンの外国人たちは、日本語をさっぱり分からないという外国人でも、この言葉を聞けばすぐ分かり、そして同じ言葉をそのまま話そうという真似をしたがるのだろう。

このような雰囲気の中で、日本語専攻を選択したのである。中国広東省惠州学院の日本語学科の大学生一年生と二年生の学生を対象し、アンケート調査で分かった。筆者もその一員であった。

筆者は初めてアニメと出会ったのは、中学校二年のころであった。あのころはまだDVDの時代であった。ある日、年上の友の家に訪ねに行った。彼女は子供っぽくアニメを見ていた。その時の筆者は彼女を見て馬鹿にして笑いを浮かべた。そして彼女はまじめな顔してこういった、「アニメの中には、現実世界から学べないこと一杯あるけど、見てみませんか。」

結局、筆者は彼女からDVDを借り、家で観てみると、瞬く間にアニメに夢中になっていた。そして今でも覚えている。あの「ガンダム シード」というアニメが、感動をくれたこと、またはその中のセリフはどれだけの衝撃をくれたことも、しっかり覚えている。

それから、「ガンダム シード」をはじめとして、アニメの探検旅を始めた。そのとき初めてアニメ、こういう考えがどんどん大きくなり熱狂的ファンになった。あの中二の夏休みは一番熱狂的時期であった。大量のDVDを買って、ソファの中で座り込み、そして、その日はじっとしてアニメに熱中する。健康や体によくないだが、そのおかげで、日本語が少しも解らなかった筆者は、日本語の発音や言葉とかを真似して、夢にさえ日本語が巻き込んできたこともあった。

始めの頃は、日本語の「あ、い、う、え、お」という基本の存在すらも分からず、アニメを熱中して観ているうちに、知らない間に、簡単な単語や習慣用法とか、覚えた。それから、アニメへの興味はどんどん深くなり、アニメを見る間に日本語の発音や意味を覚えるようになっていった。アニメのセリフを自分でもキャラのようにかっこよくて日本語でしゃべりたいから、日本語の勉強を始めるようになった。そうして、

今の筆者が居る。アニメを抜きにすれば日本語と一切関わることはなかったと言っても過言ではないと思う。

これは筆者がアニメから日本語を勉強し始めたプロセスだ。そして、こういう勉強方法の特徴やメリット、または普通の勉強しているとの違いも、しっかりわかっている。

言語習得から見た日本アニメーション言語環境の特徴は、豊富なアニメーション作品が提供してくれる言語形式、社会文化言語環境は言語学習者の異文化コミュニケーション能力を育成することができる。同化動機ということによって、言語学習者は目的語の言葉と文化を融合し、言語をより一層学習し、身につけるまでやっている。そして、目的語の国の政治、経済、文化、生活習慣などを知るには、重要な役割をしている。日本のアニメーション言語環境を利用し、日本語学習者の日本社会、日本文化への理解、異文化コミュニケーション能力の育成などに一つの手段である。

2.1 アニメーション言語環境における日本語習得

アニメーション言語環境における日本語習得は必ずしも基礎文法から始めるとは限らないことである。アニメーションの言語環境、はっきりという日本人みんなの日常会話のような言葉ばかりである。大量のアニメを見る間で、振り返った言葉がたくさん出てきたので、知らず知らずのうちにとんとん覚えてきた。この習得方法の一番目立つのメリットは、アクセントの正しさだ。専門の是正もせず、きれいなアクセントを得たということである。また、簡単な日常会話ならば、何の考えもせず、直接話そうとすることである。たとえば、「ただいま」、「お帰り」、「おいくらですか。」「いらっしやいませ。」などの簡単な、または振り返った会話は、アニメのファンならばもとくに身につけ、聞き取ることも話すことも、問題ではないはずである。

2.2 自主習得環境 VS. 教室習得環境

自主習得環境と教室習得環境の比較、どちらが優勝なんだろう。この点について、まだ高校生の私にとって、塾で日本語基礎文法の勉強をしたことがあったから、最初はアニメからもらった熱情があるから一生懸命だったが、教材の内容はやっぱりちょっとつまらないと思った。

自主習得環境の場合は、基礎の知識はも身につけているの学習者に対して、アニメは鬼に金棒、トラに翼のようなものである。アニメによって日本語に対しての興味が深くなった若者たちは、日本語の勉強を始め、そして少しずつアニメの話がわかり始め、すると、アニメや日本語に対しての興味も一層濃くなっていくのであろう。このような環境で、アニメファンたちは自分の好きなキャラクターを追いながら、日本語のレベルも上がる。

自主習得環境とは、「ある国の言語を勉強したいなら、その国の言語環境に漬かればよい。」こういう状況であらう。

また、ある先生からこういう話も聞いた。ある子は日本語の基礎勉強とか一切やっていない、読むことは出来ないかもしれないが、べらべらと喋ることができる。その原因は、12年間もの間、ずっとアニメを見ているから日本語を喋ることができる。興味があるからこそ、辛さは感じず、楽楽のうちにどんどん上達していくのであろう。

それからは、教室習得環境の場合だ。私大学に入る前、日本語専門のみんなは全部基礎があったよなという錯覚もあった。結局のところ、基礎があるかどうかを尋ねるところか、私以外のアニメファンはまず一人もいない。

すると、筆者も仕方なく、おとなしく同級生と一緒に最初から学び始められた。「おはよう」や「愛してる」とか、アニメをちょっとだけ見た子はみんな知っている言葉、筆者のクラスメートたちは誰も知らなかった。このことから、教室の習得環境に成長したみんなは、筆者のように自主習得環境における育たれた

アニメファンとの違いは、勉強した内容の順番、と記憶にとどめる内容の違いのところをわかった。

また、もうひとつ大きい違いは話すときの自然さであろう。ずっと自然的にアニメの言語環境、すなわち日本人みんなの言語環境に漬けているアニメファンたちと、中国人の先生から文法から学び始めのまじめ学習者たちとの違いは、単語の発音やアクセントとか、話した言葉の自然さとか、こういう基礎的簡単な、だが、致命的のところにおいてははずである。

2.3 言語領域に見た習得上の問題

でもアニメーション言語環境におけるのも、悪い点がある。アニメの会話が自然すぎると、時にも乱暴になったこともある。だからずっとアニメーションの言語環境に漬けるファンたちはまじめでおとなしく最初から勉強し始める学習者たちに比べると、敬語と普通語の区別はどのように使い分けるのかという問題ときたら、やはりまじめのほうの勝ちだと思う。

3. 音声の習得

セリフ、またはそのセリフを表現する方々がいるこそ、アニメから学ぶことがあると言ってもいいんだと思う。

3.1 日本アニメーション言語環境における音声習得の特徴

だからこれから話したいのは、日本アニメーション言語環境における音声習得の特徴なのである。言うまでもないが、専門の学習者でなかろうと何だろろうと、アニメはいつも正しい日本語ときれいな発音で、視聴者たちはいい勉強になる。こうして、気楽のうちに、日常会話も覚たり、さらに、個々には、若者言葉もたくさん含まれていて、学習者たちは日本の若者の間で流行っている言葉も知ることができる。これらの言葉は本の中でも得られないはずであろう。

アニメのタイプによって、時には方言の勉強もできる。例えば、「ラブ★コン」というアニメの中では、全部大阪弁で、面白く勉強することが出来る。

注意を払えば払うほど、もうひとつ趣味深いところを見つけた。それは声であった。また、その声の裏にいる声優さんたちのことである。これらの声優さんたちはみんな声の達人で、どんなキャラもどんな気持ちでもうまく伝える事ができる。女の子でも男の声でもアフレコをすることもできることも知った。さらに、感動をくれたのは動画と言うより声であろう。ただアニメのキャラの気持ちや思いをしっかり伝えるだけでなく、声に心がこもっているからこそできるものである。もっとも重要な、声優たちのすばらしいアフレコがあるからこそ、日本語専門生として、またはアニメファンのわたしはずっとアニメを追った甲斐があると言うことである。

最初にアニメを見た時も、かっこ良すぎる声に引き付けられ、もし声優になれたらいいなという想像もした。(笑)

最近のアニメは、鮮やかなキャラやその声を思い浮かべる以外、オープニングやテーマソングの旋律もいっぱい頭の中に入り込んでくる。優れた監督や絵を描く人と声優はもちろん、いい作曲家も大事である。何かいいアニメを見た後、頭の中で必ずそのオープニングとかのOSTが響いている。歌詞もいつの間にか覚えている。でも今の歌詞はアニメ技術とともに複雑になっていて、何回聞いても覚えれない。それでも「いい歌だなあ」と思いながら、解らなくてネットで歌詞を探し、歌を歌おうと試してみたこともある。そこでまたいくつかの言葉を覚えてきた。

3.2 音声の習得における自主習得と教室習得

音声の習得における自主習得は以上のように、セリフと歌のところに宿っている。

では、教室習得のほうはどうだったのだろうか。基礎練習からの教材だから、最初の会話練習は、私

にとって遅すぎでたまらないほど、気も散らされた。結局のところ、逆に何が言ったかわからなくなった。しかし周りのみんなは初心者で、遅くても分からなかった。すると、どうせ分からないなら、いつそ聞かないとしたこともあった。

そして年とともに、教材の内容も難しくなってきた。アニメのスピードや複雑さにどんどん慣れていくの私にはまだ大丈夫のところだが、みんなは一生懸命しないと無理と言っていいところであった。

こういう授業の進めは早いとも言えない、また本当の日本人会話の間で役に立つかどうかとも疑わしい。筆者にとって、学校の先生方の話スピードも言葉の複雑さも大したことではないが、でも、少なくとも学校の専門授業を受けている、私のクラスメートたちは、日本人先生の話について、分からないという場合が多いのである。

3.3 自主習得の効果

こういう状況で、寮の友たちも筆者の影響に従って、みんな自主学習をはじめ、アニメを見始めた。すると少しずつ自然な日本語日常会話に慣れてきて、先生の話も大丈夫になった。

筆者はこうやって、一昨年は日本語能力試験N2を合格した後、張り切って一気にN1に進み、去年も合格できた。聴解の部分はなんとなく無事で合格したのも、アニメのおかげであった。

4. 文法の習得

そして寮のみんなは疑問を生じてこう聞いた、「不真面目のあんたなんで、いつもアニメばかりで、どのように文法とかに覚えておいたのでしょうかね。こっちは毎日復習とかをしっかりとやっているのに。」

「だよな。なぜでしょう。アニメの力かな。」当時、筆者はこのふうに答えた。でも本当は、筆者だって毎日勉強してるのだけど。文法は確かに硬いだが、しかし使い慣れているの文法ならばアニメの中によく現れ、知らず知らずのうちでもわざわざの場合でもたくさん勉強になれるのである。

4.1 習得が難しい言語形式と自主習得、またはその効果

また、中国語と違った表現とかもたくさんあるだが、聞き慣れているならば問題にならないと思います。

たとえば、「においがする。」という表現は、本当は中国のみんなにとって理解しがたいことのである。どうして「におい」の後、「する」がついているのか。丸暗記しかない。でもどのアニメもほとんど「におい」に関しての言葉があるだから、筆者にとって、これはおかしな表現ではない。「慣れれば自然になる。」という、中国ではこういう諺もある。

または敬語と普通語の区別や、どの場合で敬語しか使えないのか。などのような問題に対して、アニメには大部分は若者言葉だけど、でもまじめに話しているタイプもある。例えば「黒執事」の執事の言葉、丁寧語ばかりで、こういう中国みんなに対して抽象的なことも、勉強もなれる。また、中国語と違っているところ、中国語の中に全くない表現とか、このように理解しにくいことも、例文のようなアニメ会話を通じて、簡単に覚えられるようになった。

4.2 文法の習得における教室習得

教室習得のほうは、アニメからの勉強に比べると、まずは興味が減ったということである。また、一歩一歩の進めは手堅そうだが、でも、どんどん進めると中国語とまったく違う文法も出てきて、丸暗記だけで済まないというときもあるはずである。

だからみんなの悩みを聞いた後、「やっぱアニメを好きになってよかったな。」と思われた。

5. 語用的側面の習得

5.1 語用能力の発達と学習環境の違い

もともと何かの外国語を学ぶことは、その言語を使うための準備ではないか。その言語を使って、外国人と話し合うというのは、外国語勉強の真実ではないか。

また近年、中日関係も親しくなり、両方のコミュニケーションも増えてきた。すると日本語の語用能力も発達している一方のではないであろう。

だからこそ、現在の日本語勉強は、昔の口が利けない日本語じゃなくて、使える、すなわち話せるほうが重要だと思う。

日本語を勉強したいならば、日本語の環境に溶け込んでほうがいい。私はそう思う。でもクラスメートたちはこの見地に認めるが、「でもそれは無理でしょう。ここは中国だよ。」と言い返した。

確かに、自分の国で外国語を勉強するには、周りは母語ばかりの言語環境の制限で、ちょっと難しいである。

5.2 日本アニメーション言語環境の優位性

でもアニメはその硬い壁を破り、「日本語言語環境」という手を伸ばしてくれた。今の筆者にとっては、アニメはただリラックスための道具ではなく、精神を緩められると同時に、アニメはもう勉強の道具となり、また語感を育ち続けるための不可欠の友になっている。

タイプによって、もし武器やマフィアのタイプを見たいなら、武器に関わる言葉を学びたいならば去年の新番「ヨルムンガンド」、ちょっと古いが「black lagoon」もお薦め、もし哲学的なものを見たいなら人気もの「魔法少女まどか☆マギカ」とかを見て下さい、「浮士徳」の主旨を参考したらしいである。

偶にも現実に照らしているものを見たいなら、それなら近年の「サイコパス」とかもお薦め。こういうタイプのアニメを通じて、人々の思想の中に隠れている闇さえも披瀝できる、そして深く考えさせられるであろう。

もし現実が厳しくてしばらく現実に向き合う気がないなら、癒し系を見てみろ、例えば「夏目友人帳」とか、「蛍火の杜」とか、これらの暖かいアニメをみたら、きっと心の深いところにある希望と愛の光も光って来るのであろう。怪談やお化けのことに興味を持つなら、お化け専門の「怪談レストラン」や「化物語」というタイプもある。見たいものがあつたら、何でもアニメの世界で見つかるはずである。

いろいろのタイプやテーマに通じて、言語もたくさん勉強になり、私もさまざまなテーマを通じて、世界観も変り、言葉の勉強を続けながら、人生に対して考えさせられている。

これこそが、日本アニメーション言語環境の優位性だと思う。

5.3 教室習得の問題点

そして、教室習得の問題点は、外国としてみんなの問題点だと思う。それはさっきと言った通り、母語言語環境の制限である。

学校で日本人の先生以外、先生方はみんな中国語で単語を説明し、教科書中の本文も中国語で説明した。これは仕方ないことである。最初は日本語で説明してもみんなも分からなかったであろう。しかしみんなの日本語レベルが上がったの今でも、中国語で見た新しい文法や単語を解釈したいという習慣はもう決めたようである。

教室と比べて、アニメから言語を学ぶというのは全員にとって相応しいとはいえないあるが、でも効果は確かのものだと思う。少なくとも、最初のどこから、アニメはけっして中国語を言うことはない。はじめから勉強したい言語の環境に漬けているというのは、最高のではないあるか。そして効果も確かのものだと思う。

5.4 自主習得の効果

現在、筆者は大学3年生になり、ずっとアニメの中に溶け込んでいる筆者と、普通に勉強している他の

同級生との違うところがわかった。まず一番大きな違いは、聴解能力や会話能力であろう。聴解はちゃんと訓練すれば速やかに上達できるかもしれないが、日本人が少ないという環境の中では、日本語を使う機会が少ない、だから会話能力の上達は非常に難しいである。でも私の場合は、口を開けて日本語で挨拶してみるという勇氣といい、正しいアクセントといい、周りのみんなより楽にできるようになっている。少し考えれば、長年以来、本場の日本語も聞き取れているから。

自分が一番狂気してアニメを見た時には、人と会うと思わずお辞儀をして挨拶することもあった。何かを見た後、頭に思い浮かぶのは日本語ばかりであった。

そして、大量のアニメを見た後、日本語も少しずつ身に着くようになっているから、自分で会話したい時も、アクセントや言葉の表現を心配するというより、心配する前にはもう自然にしゃべっている。その原因は、たくさんのアニメを通じて語感を養ってきたから。一旦語感が養われれば、話すことは普通に勉強している学生より話し易いと思う。

6. まとめ

アニメーション言語環境による日本語自主習得と教室日本語習得を比較した場合、アニメーション言語環境による日本語自主習得のほうが音声の習得、文法の習得、語用能力の習得に有利であることが、筆者自身の検証と大学内の関連調査によって実証的にも示されていることがわかった。今後中国大学内日本語教育の中で、アニメーション言語環境による自主習得はさらに求められ、利用されていくものと考えられるが、教育の中で、実際にどのように活動が有用で、個々の大学生学習者の動機づけや言語適性、学習スタイルなどを十分に考えたうえで活用していくことが必要である。

参考文献

- [1] 坂本正ら. 多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育[M]. 東京:株式会社スリーエーネットワーク, 2008.
- [2] 韩若冰. 日本动漫于日语学习的意义 韩若冰[J]. 山东外语教学, 2008, (6).
- [3] 冯千. 对大学日语专业开设日本动漫课程的多方位思考[J]. 西南农业大学学报(社会科学版), 2013, 11(4).
- [4] 王书睿. 利用网络资源培养学生日语自主学习能力[J]. 中国校外教育, 2011, (24).
- [5] 林婷婷. 日本动漫的文化特征及对日语学习的影响[J]. 考试周刊, 2011, (29).

Japanese self-learning experiences in animation language environment

Ying Chen*

chuanjin KANG

Abstract

As a means of multimedia, animation, which combined "seeing", "hearing" and "speaking", offering a independent language learning environment for learners and being possible to improve the language skills of the learners.

Animation can also provide the learners with the knowledge and the usage of the target language . At the same time, it can also reflect the characteristics, the humanism and the spirits of the nation when learners using the target language .

The presentations of the language and the environment of social cultural language, which is presented by the animations, are able to teach the learners about the ability of intercultural communication.

By means of assimilation, language learners can combine the language and the culture, upgrading the learning process into a higher stage.

What's more, it's very important to study politics, economy, culture and custom of the native speakers.

Using the language environment given by Japanese animation, Japanese learners can get more chances to understand Japanese society and culture, making it into a way of learning the ability of intercultural communication.

From the theory about the constructivism of humanistic psychology, this article studies the learners who learn Japanese by means of watching Japanese animation. We also investigate the actual result of this way by observing the ability of Japanese and autonomy ,as well as intercultural communication of the learners. With the development of animation and multimedia , it is worthwhile to discuss the effect which made by the Japanese animation environment to model Japanese self-learners .

Keyword: animation, Japanese self-learning experiences, language environment

Ying Chen : Huizhou University Department of Foreign Languages Japanese professional grade 3 students

ChuanJin Kang: Huizhou University Department of Foreign Languages Senior Environmental Management

Lecturer